

鷺神社宮司を拝命して一年、今思うこと

平成二十九年の六月一日に鷺神社宮司を拝命してから一年が過ぎました。この間鷺神社総代の皆様はじめ氏子の皆様のご支援とご協力によりまして非力な私ではありますが、何とか宮司の職を務めることができましたこと、感謝に堪えません。本当にありがとうございました。紙面をお借りして先ずは御礼を述べさせて頂きたいと存じます。

さて、宮司となってからの私の一日は、午前五時半に起床し、六時過ぎには白和瀬神社（本務神社）に行って朝拝をすることから始まります。朝拝とは、大祓詞と神拝詞という祝詞を奏上して担当二十社を崇拝する氏子の皆様の安寧を祈願するものです。この朝拝を一年間続けましたが、四季折々に面白いドラマがあります。

春は、花粉と黄砂が回り縁を黄色く染め、拭き掃除に悪戦苦闘です。夏から秋にかけては猿が遊びに来て桃や梨、リンゴを食い散らかしたり、神社の施設を壊したりと様々ないたずらをしてくれます。秋も深まると大量の落ち葉が参道を覆い、カメムシ（屁くさ虫）の大群が拝殿内を占領するためにその駆除作業に没頭します。このように季節毎に様々なことが起こり、その対応に苦慮しているのが現実です。

しかし、もちろん嬉しいこともあります。毎日同じ時刻に神社に上がると、そこでほぼ毎日お会いする方がいらっしゃいます。その方は八十五歳を過ぎていらっしゃいますが、耳が遠い他はとても健康で毎朝軽トラックを運転して颯爽と神社を参拝すると、十五分ほどかけて末社の車松神社と白和瀬神社の両方の社回りを掃き清めて帰って行かれます。健康のためにやっているとか氏子としての責任感ということではなく、理屈無しにひたむきに神に奉仕するこの方のお姿に一年間接し、毎朝清々しい気持ちになり、神々しくありがたく感じるのです。この方には神が宿っているのではないかとさえ感じてしまいます。

私は、宮司の仕事は御神徳の高揚だと常々思い奉仕しておりますが、この方のお姿に触れ、責任感とか使命感という気持ちがあるうちは御神徳の高揚は程遠いと思うに至りました。理屈抜きに神に仕える気持ち、神を崇拝する気持ちに辿り着かなくては御神徳の高揚はありませんのです。

まだまだ未熟ではございますが、神に仕える身としてひたむきに奉仕し、先ずはこの方の心境に近づくことができるよう日々精進していくことが今の私の思いであります。

力足らずの宮司ですが、今後とも大きな広い眼で見守りご支援いただければと切にお願い申し上げます。